けいはんな学研都市からの挑戦

低炭素社会実現へ新・環境ビジネスモデル創出を

市民参加の「けいはんなスタイル」構築目指す

参考文献　【２００８年７月８日　京都新聞】

# エコ・シティーサステイナブル・アーバン・シティの実現に向けて

同志社大学　千田二郎

福田首相は今月６月、わが国の地球温暖化対策発表、太陽光発電の普及促進、省エネ電球の採用、省エネ住宅等の普及促進を具体策としている。同志社大学京田辺校地では、校地に接する「同志社山手」地域を対象に産学公民の連携により、安心、子育て、教育、環境、同志社らしいまちづくりをキーワードに環境共生を主眼となるサステイナブル・アーバン・シティのグランドデザインの提案を行っている。

　新しい都市構築として製品の製造から廃棄までの環境影響の方か手法ライフ・サイクル・アセスメント（LCA）で住宅建築、エコカーなどの次世代交通システムの導入にむけ研究・準備を進めている。エネルギ―面では、火力発電や原子力発電を利用した従来の大規模集中型システムとコージェネレーション（熱電併給）、ヒートポンプ、太陽光発電などの小規模分散型システムを調和させ適材摘所に配置、エネルギ―利用の最小化を図るホロニックエネルギ―システムを検討。現段階では導入コストは居住者負担などインフラ整備が不十分で問題多いが、環境関連企業のコンソーシアム形成で解決にむかっている。

　地球規模の社会的責任を意識（GSR　Global Social Responsibility）を意識したライフスタイルへと住民を意識改革させるために、自然科学・社会科学・人文科学の三位一体で総合化学プロデユーサー育成も急務である。